

“してみよう、見てみよう、支えてみよう”の意欲を喚起する市民のための体育館



設置 袋井市 市民生活部スポーツ政策課
 スポーツ施設係
運営 シンコースポーツ株式会社
 ☎ (0538) 31-2070 FAX (0538) 31-2071

所在地
 ・静岡県袋井市 久能1912-1
アクセス
 ・袋井駅から徒歩で約35分

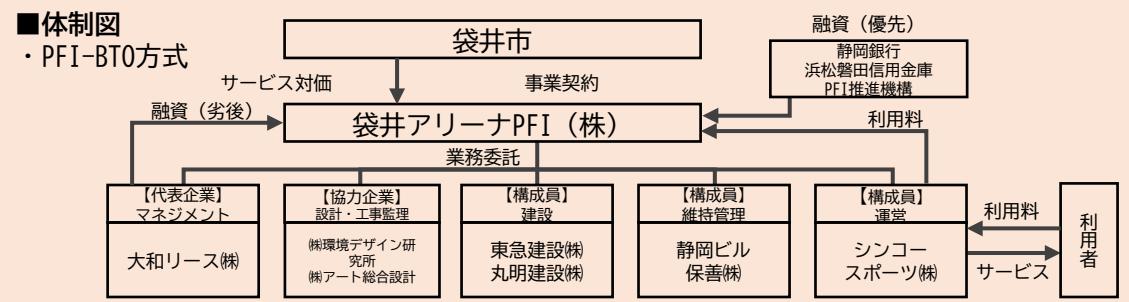
DATA

■竣工
 ・2019年
■規模
 ・延床面積 7,768.51㎡
■総事業費
 ・約42億4千万円 - 【土地購入費】 社会資本整備総合交付金 28,600千円
 【建設工事費】 社会資本整備総合交付金 39,420千円
 緊急地震・津波対策交付金16,585千円
 学校施設改善交付金 241,188千円
 スポーツ振興くじ助成金 4,800千円

■主な設備

 メインアリーナ 観覧席固定500席・ 可動式約540席	 サブアリーナ 約790㎡	 武道場兼多目的フロア 約581㎡	 キッズルーム 156㎡
--	--	--	---

<その他>
 ・トレーニング室
 ・多目的室（研修室）
 ・会議室
 ・談話室
 ・健康・体力測定室
 ・授乳室 など



①構想・計画

○より多くの市民のための施設に！

- 竣工から30年以上経過し、市民の要望への対応**
- ・市のまちの将来像「日本一健康文化都市」の進化に向けた、健康増進施設が必要であった。
 - ・また、旧体育館は、竣工から40年以上が経過し、**老朽化が進む**とともに、**耐震性能も十分ではなく**、大規模災害時の避難所として利用はできず、危機管理上課題を抱えていたため、新体育館の建替え事業へ。
- 市民スポーツの拠点によるシンボルエリアの創出**
- ・同地域内に「健康」の拠点施設である総合健康センターとの連携、エコパスタジアムとの棲み分けを考慮し、「市民」のための施設として検討が行われ、袋井市が掲げる「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも親しみ、楽しむことができるスポーツ文化の推進」という基本方針の基、8つのコンセプトが示される。

- ①「するスポーツ」
- ②「見るスポーツ」
- ③「支えるスポーツ」
- ④交流を生み出す施設
- ⑤袋井らしいおもてなしを感じる施設
- ⑥市民の元気があふれる施設
- ⑦災害時の避難拠点としての施設
- ⑧地球にやさしい施設

→事業の効率化、質の高い公共サービスの提供、費用対効果を最大限にする目的で**PFIの採用**

②設計・建設

○8つのコンセプトに応じた設計・建設の実現

■PFI事業者の提案による更なるユニバーサルデザイン化へ

- ・施設の構想段階ではユニバーサルデザインありきではなかったものの、基本方針に基づき、PFI事業者から「より多くのひとに利用してもらえる施設」という提案があり、**誰でも利用できる体育館を実現し、施設全体にユニバーサルデザインの要素が多く盛り込まれることとなった。**

<p>①「する」スポーツ</p>  <p>世代を問わず多様な人々が気軽な運動から本格的な競技スポーツまで対応できる空間</p>	<p>②「見る」スポーツ</p>  <p>高い視認性と透過性の高い空間を構成、見る側・見られる側双方の意欲を刺激</p>
<p>③「支えるスポーツ」</p>  <p>プライバシー性の高い空間に配慮し、より多くの市民が活用しやすいさまざまな場所の提供</p>	<p>④交流を生み出す施設</p>  <p>交流を促進する5つの要素を持つ空間にアメニティ性を重視した交流空間の整備</p>
<p>⑥市民の元気があふれる施設</p>  <p>子どもから高齢者までスポーツを通じた多世代交流を生み出すことで市民が元気になる施設</p>	<p>⑧地域にやさしい施設</p>  <p>ライフサイクルコストの削減と自然エネルギー活用や省エネルギー手法を導入</p>

③管理・運営

○施設の魅力を高めるためのサービス

■様々な利用属性へのサービス提供

- ・初心者からアスリート、子どもから高齢者、外国人まで**様々な工夫によるサービスを提供する。**

初心者からアスリート



ウェルネスシステムの導入 多彩な教室プログラムの開催

障害者や外国人等



様々な車いすの配置 対話支援システム等

市民利用



総合防災訓練 カフェの運営

メイン・アリーナ

➤ どんな属性でも気軽に「する」スポーツ、「みる」スポーツを行うことができる工夫

車いす利用や市民イベント等、様々な活用するための床面の安全性の確保が求められる。



フロアの床板にタラフレックスを採用することによって、傷が付きにくく、手入れもしやすい。



床を養生せず、机や椅子を用いたイベントが可能。車いす競技等も安全・安心に実施可能。

誰もが臨場感のあふれるスポーツを見ることができるよう、車いす利用者等も快適に観覧することができる環境を整備する必要がある。



入口正面に車いすスペースを確保、1Fエントランスからエレベーターを経由し、車いすで観戦が可能。

聴覚障害者は、音の情報を正確に得ることが難しく、特に緊急時にはリスクとなる。



高性能音響設備（360度無指向性）を設置し、アリーナ全体に均一に音を届けることができ、難聴者にも優しい音を提供。

様々な利用者が安全に利用することができるよう、曲がり角等に配慮することが必要である。



見通しを確保するため、四隅に退避場所を設けて安全を確保。観戦の際に加え、日常時はランニングを楽しむことができる。

道具や設備が整っていないため、パラスポーツに取り組むことができない状況である。



様々な備品を取りそろえ、パラアスリートの練習や国内大会、市民の理解醸成イベント等での使用も可能。

施設内全体

➤ 多くの人が施設を利用しやすくするための工夫

身体に不自由な障害者等が、館内の移動や階段の乗り下りに対して苦痛を感じる場合がある。



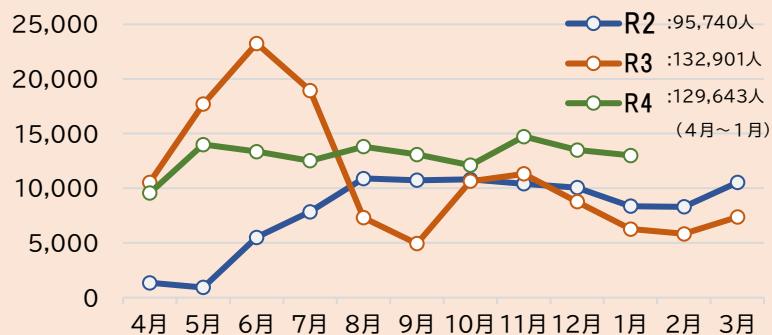
肢体不自由者や高齢者に配慮して、階段の蹴上（段差）を通常より低くし、左右両側に手すりを設置。



館内に段差をなくし、エレベーターで観客席のある2階まで上がることができ、広々とした空間としている。

利用者現状

利用人数



スポーツ施設利用者数は増加傾向にある（R3年度利用者数はワクチン接種利用者含む）

効果

[PFIを採用したことによる効果]

- PFIを採用したことで長期的視野に基づいた施設運営が可能となった。
- PFI事業者の裁量範囲の幅が広く、民間の経験知識や創意工夫を十分に発揮することができ、その結果、様々な利用者が気軽に利用できている。

利用者Voice

- 全体的にとっても優しいつくりになっている。例えば、車いす用出入口は、身体障害者用駐車場のすぐ脇にあり、雨に濡れずに入る事ができる。
- トイレの位置がわかりやすくてよい。
- 子どもの遊び場もあり、気兼ねなく遊ばせることができ、ジムもあって使いやすい。

キッズルーム

➤ 子どもも親も共にスポーツに親しむことができる工夫
➤ 子どもの安全面を考慮し、親も安心してスポーツを行うことが可能

悪天候の日に、子どもが外では遊べないため、いつでも楽しく遊ぶことができる環境が求められている。



屋内に大型遊具を配置。小さい頃からスポーツを身近に感じることができる環境を整備。

子どものことを見守り、安心して遊ばせつつ、親もともにスポーツ等に取り組むことができる環境がない。



ガラスの仕切りで双方の部屋から視認可能。親が子どもを見守りながらトレーニングができる。



子ども広場（屋外）
視認確保
キッズルーム



子どもが安心して利用できるようキッズトイレやベビールーム（授乳室）等を完備。

トイレ・更衣室

➤ 安心してスポーツに親しむことができる工夫

色がなく、無機質なロッカーだと、利用している場所を忘れてしまう。



ロッカーのキーホルダーを段数によって色分け、自身の使用ロッカーを探す際に目安をつけやすくしている。

入室の際、屋内靴等を履き替えることが面倒である。



靴のまま履くことができるスリッパも用意し、負担なく利用することが可能。

大会や利用者の状況によって、必要となる規模が異なる。



男女更衣室の表示板を張替え可能なマグネット式とし、相互に利用できるようにしている。

■屋外木製屋根付き遊具設置

屋外の子ども広場に屋根付きの遊具を設置し、屋外でも子ども達が遊ぶことができる。また、カフェも併設し、親子でゆったりと過ごすことができる。



日本語の案内では外国人が読めず施設のルールなどを理解できない。



ポルトガル語 日本語 英語

施設の案内板だけではなく、機器の説明書などにも英語とポルトガル語（エリアの住民が多いため）の説明を用意。